



2020年1月10日発行
特定非営利活動法人
盛岡YMCA
〒020-0015
盛岡市本町通 3-1-1
Tel 019-623-1575
Fax 019-623-1579
www.moriokaymca.org
発行人/ 渡塚 有史
編 集 / 本部事務局

YMCA News

1

新年あけましておめでとうございます



ノスタルジーにしがみつかず、共に新しい年を生きよう



盛岡YMCAに集う関係者の皆さま、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いします。

60代半ばを過ぎて、同世代の仲間が集まると、つい、ノスタルジックな話題が多くなりがちです。「自分たちが子どもであった昭和の時代は、貧しかったが、皆が生き生きして人々の絆も強かった。」とか、「安保世代やそれに続く世代は、政治や社会、未来に対し、希望を持って自己主張をしていた。」といった類の内容です。しかし、よくよく振り返ってみると、こうした言説には、無意識の嘘やごまかしがあります。

私は、かつて、先の戦争に関わった世代があれほど悲惨で残虐な戦争に巻き込まれ、加担を余儀なくされたにもかかわらず、戦友会などで戦争体験を美化する様子を見て苦々しく感じておりました。戦場で父や兄弟、息子を奪われた遺族についても同様で、なぜ、あれほどに戦死者の「純真な思い」を強調し、靖国神社に『英霊』として祀られることを肯定できるのであろうかと疑問に感じていたものです。

しかし、年齢を重ねるにつれ、人間には、自身が歩んできた軌跡を肯定し、美しい記憶に包まれて後半生を過ごしたいという心の動きが生じることに気付くようになりました。こうした場合、私たちの記憶はかなりの部分が改ざんされ、ぶざまだった時期、大小の過ちなどが消し去られます。そして、このような現象は、個人から集団レベル、国家レベルになるにつれて、しばしば危険なエネルギーを生み出してしまうことすらあります。ヒトラーとその支持者たちの登場は、「かつての美しく強いドイツ民族」へのノスタルジーに発していました。

また、公民権運動の時代、黒人への過激な迫害で悪名高いクー・クラックス・クラン(KKK)も、始まりは、南北戦争以前の南部社会へのノスタルジーに基づく、友愛結社でした。日本の現代史も過去の罪責の否定と美化によって改ざんされている面がないとは言いきれません。

私たちは、過去を振り返る時、しばしば、自身の罪責を棚に上げて、「今どきの子どもは...。」とか「最近の若者は...。」と、若い世代にのみ過大な発達課題を押し付けてしまいます。しかし、こうした態度や言動をとってしまう場合、もしかしたら、私たちは、「終わった人」として、自らの発達課題を放棄しそうになっているのかもしれない。盛岡YMCAには、私を含め、中高年層も多く応援団として集っています。私たちは、すべての世代のものが、それぞれの発達課題を自覚し、共に成長できるものとして、この1年を歩んで参りたいと思います。

たとえ、私たちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。
(コリントの信徒への手紙二4-16)

盛岡YMCA 理事長
うおずみ ひであき
魚住 英昭



盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



盛岡YMCAクリスマス会に家族4人で初めて参加させていただきました。教会に行く機会ほとんどありませんでしたので、教会の雰囲気、クリスマスツリー、クリスマスの飾り付けでクリスマスを感じる事ができ、子どものときに感じたワクワクした気持ちを思い出しました。牧師さんの話の中で、世界には、クリスマスプレゼントが自分に来ると思っていない子どもがたくさんいるという話がありました。クリスマスプレゼントを楽しみに待つことができることはとても幸せな事だということを改めて感じ、世界中の多くの子どもたちがクリスマスを楽しめるようになればと思いました。讃美歌を歌ったり、キャンドルサービスを行ったりして、慌ただしい日常とは違った厳かな時間を過ごすことができました。クリスマスソングのクイズでは、私たちのグループはなかなか正解することができませんでしたが、グループごとに協力して答えを考えることができ面白かったです。また、子どもたちが楽しみにしていたプレゼント交換では、とても大きなあみだくじが登場し、あみだをたどって行った先の方とプレゼント交換をしました。

私たち家族は、たくさんの種類のおやつ、食べたことのない美味しいお菓子、おしゃれなチョコレート、ビール(!)などをいただき、とても嬉しかったです。

たくさんの皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。

ぶらいむ・たいむ前潟校 小野寺航・昇母



サンタさんが幼稚園に やってきました!

16 平和と公正を
すべての人に



サンタクロースを依頼して今年で2回目です。子どもたちの希望であるサンタクロースをどなたに頼もうか悩んだ末、YMCAから有り難いお返事をいただきました。

私の勤めている幼稚園では、クリスマス会で聖劇礼拝をします。主イエス様の誕生の意味を知り、心を込めて準備をします。その緊張が解れ待ちに待った祝会です。各学年がイエス様のお誕生をお祝いするために出し物をしますが、子どもたちにとって楽しみなのはその後に来るはずのサンタさん!嫉妬してしまうくらい人気者です。子どもを優しく招いて、抱きしめながら子どもの声に耳を傾けてくれるからなのでしょう。今年のサンタさんも、一人ひとりの子どもの目を見ながらプレゼントを渡してくれました。「ありのままの君が大好きだよ」その思いがきちんと子どもの心に届いた瞬間でした。そんなことを考えるとYMCAでの大学時代を思い出します。リーダーが子どもに真剣に向き合っていて、そんな仲間が私の誇りでした。

今でも子どもとの関わりに悩み、我を失いそうな時に考えます。「あの頃の仲間なら目の前の子に何と伝えるかな」と。子どもひとりひとりを大切にするYMCAは、サンタさんのような存在ですね。見えない存在から見守られ愛されていることを子どもたち自身が感じながら...。サンタさん、来年も待っています!

学校法人聖公会盛岡こひつじ学園
仁王幼稚園 教諭 種市祥子



仙北町幼稚園クリスマス会 サンタ出動!

16 平和と公正を
すべての人に



12月17日(火)仙北町幼稚園の園児・保護者によるクリスマス礼拝が行われました。礼拝後、食事会が行われ、その後、子どもたちの「サンタさん!」の声に呼ばれサンタクロースとトナカイが現れる形です。

今年で5回目となる盛岡YMCAスタッフによる出張サンタ。3年連続でたもりサンタ(東森・前潟センター)とちゅーとナカイ(尾形・向中野センター)がお邪魔してきました。鈴の音とともに会場の中に入ると子どもたちが目を光らせてこちらを見つめています。保護者の方々からも拍手と歓声をいただきました。子どもたちによるサンタさんへの質問コーナーでは、かわいい質問がいくつかあり、答えているたもりサンタも心が浄化されていきました。サンタとトナカイによる出し物は毎年恒例。前回までは「リフティング」「けん玉」「縄跳び」を披露し、今年は「輪投げキャッチ」を披露。先生や子どもの投げる輪を全てキャッチ。そして最後にサンタが高速で連続して投げる輪投げをトナカイが魔法の棒でキャッチするというもの。難しい技にチャレンジするトナカイでしたが、子どもたちから「トナカイさん!がんばれー!」の大声援をうけ、大成功!

子どもたちも保護者の方々からも大歓声が沸きました。最後に子どもたちへのクリスマスプレゼントを代表して先生へ渡し、子どもたちとハイタッチしながらサンタとトナカイは鈴の音とともに帰っていきました。サンタと初対面した時、応援しているとき、プレゼントを渡しているとき、最後お別れするとき、それぞれが違う表情を見せてくれた子どもたち。私たち大人にとって、とても癒される子どもたちの表情、そして笑顔と夢を私たちはいつまでも大切にしていきたいと思いました。仙北幼稚園のみんな、また来年会いましょうね。

担当職員 東森(たもり)



11月23日(祝)、盛岡市内各所にて国際協力街頭募金を行いました。今年度の街頭募金には、学童保育やサッカースクール、水泳教室、体育教室に通う小学生や、盛岡スコール高等学校の生徒、大学生のボランティアリーダー、ワイズメンズクラブの方々など、約70名の参加をいただき、大きな盛り上がりを見せました。

当日は、この季節の盛岡としては暖かかったものの、それでも10℃ほどの気温の中、街頭に立ち募金を呼び掛けるメンバーは、寒さにも負けず元気な声で道行く方々に声を掛け、募金をしてくださった方々には心からの感謝を伝えていました。

また、寒さで冷えた体と、呼びかけの疲れを癒してくれたのが、内丸教会の会堂でいただく昼食でした。唐揚げやカレーなど、こちらもボランティアの皆さんが温かいご飯を作って待っていてくれました。この昼食を食べ、午後も元気いっばいの呼びかけが盛岡市内中心部に響き渡っていました。参加したメンバーの頑張りと温かいご支援をいただき、今年度は盛岡YMCA該当募金史上最高額となる257,016円のご協力をいただきました。この度の益金は、日本YMCA同盟を通して、インドにあるセント・ポニファス・アンバハムという施設で生活する子どもたちの支援に使われます。私たちの声に耳を傾け、足を止め募金していただいた方々、「頑張ってるね」「寒いのにえらいね」などの声を掛けてくださった方々や、当日ボランティアで参加してくださった皆さんなど、街頭募金に関わってくださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。

人はみんな誰かを支え、そして誰かに支えられて生きていきます。今夏の募金活動を通して、誰かのために自分の力と時間を注ぐことの大切さを、少しでも感じてくれたら嬉しく思います。

街頭募金活動は終了しましたが、国際協力募金は1月末まで受け付けております。引き続き、皆様のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

国際協力担当 中村圭一



「いじめのない世界をめざそう」 ～ピンクシャツデー2020～



盛岡YMCAでは、いじめのない世界をめざしていく取り組みの一つとして、全国のYMCAと共にピンクシャツデーを実施いたします。

2007年、カナダのとある学校。ピンクのポロシャツを着て登校した少年が、「ホモセクシャルだ」といじめられました。

それを聞いた先輩2人が50枚のピンクシャツを購入し、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけたところ、翌日学校では呼びかけに賛同した数百名の生徒が、ピンクのシャツや小物を身に付けて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。このエピソードは※SNS等で世界中に広まり、今では70か国以上でいじめに反対する活動が行われています。カナダで最初にこの出来事があった日が、2月の最終水曜日でした。それ以降、2月の最終水曜日に私たちもいじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日としています。

盛岡YMCAでも毎年、学童保育等のプログラムで子どもたちと一緒にいじめについて話し合い、ピンクのシャツや小物を身に付け、賛同の意思表示を行ってきました。今年度盛岡YMCAでは、まず、学童内でのいじめと思われる事象や、過去の事象、これからいじめにつながる可能性のある事象等、職員への聞き取り調査を行い、シェアすることとしました。私たち大人がいじめに本気で取り組む事で、子どもたちとも本気で向き合っていけるものと考えています。保護者の方々、関係各社の皆様、子どもたちのために、そして、より良い地域社会を目指すために私たちと一緒に

ピンクシャツデーの運動を広めませんか。ご賛同・ご協力の程、宜しくお願い致します。

〈写真・メッセージのお願い〉

盛岡YMCAでは、ピンク色の服や小物を身に付けての写真や、メッセージをお待ちしております。ピンクシャツデーの趣旨・想いに賛同いただきご協力いただける方は、以下アドレスまで写真やメッセージをお寄せください。いただいた写真やメッセージは盛岡YMCAフェイスブック並びにホームページに掲載させていただきます。

宛先: higashimori@moriokaymca.org

ピンクシャツデー担当 東森聡

※ソーシャル・ネットワーキング・サービス
インターネット上で人と人のつながりや交流を楽しむ、コミュニティ型の会員制サービス





※ポジティブネット⑭

大きなカブ

ロシアの有名な民話です。おじいさんが手塩にかけて育てたカブはあまりに大きく、元気に育ったため、おじいさん1人の力でぬくことができなくなりました。そこで、おばあさんと呼んできて手伝ってもらおうのですが全然動きません。おばあさんは、孫を呼び、孫は犬を呼び、犬はネコまで呼んできてみんなで力を合わせてカブを引き抜こうとします。「うんとこしょ!どっこいしょ!!」それでもカブはピクリともしないのです。最後に小さな小さなネズミが登場します。そのネズミがみんなの列に加わるとあら不思議。それまで動く気配すらみせなかったカブがずると動き出し、とうとう引き抜くことができたのです。

私たちの生きる社会は紛争、少子高齢化、格差、いじめ、虐待などさまざまな課題が山積みです。そのような中、必要とされるのはそれぞれ異なった資質、価値観、文化を持った人たちが互いを理解し合い違いを超えて力を合わせていくことです。

私たちは、社会の問題を耳にしても、「いったい自分に何ができるんだ!」「何をしても無駄じゃないか?」そんなあきらめにも似た気持ちになったりもします。

この物語に登場するネズミも最初はきっとそのような気持ちだったのでしょ。しかし、ネズミは一步を踏み出しました。もしかしたら、ネコや犬から励まされたのかも知れません。そして、とりあえず踏み出したネズミの小さな小さな一步が大きなカブを動かしたのです。

2020年はネズミ年です。未来を創る私たちも小さな一步を踏み出しましょう!!

「すべてのひとを一つにしてください」

(ヨハネによる福音書17章21節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

インドでビリケン・マックスが考えた⑧



チェンナイでは、スレッシュ親子に動物園やデパート、民族博物館に連れて行って頂くこともありました。その行く先々でインド人と触れ合い、色々な文化に触れました。デパートではインドの鮮やかな衣類やアクセサリ、沢山のスパイスなどが売られており、お土産を買うのにとっても迷いました。また、イケメンなお兄さんに、2週間ほどで消えるヘナタトゥーを入れてもらいました。民族博物館では南インドの州ごとの違いや、宗教の違いを感じることができる展示がしてありました。

そして、出店で野菜を買い、煮っころがしを作って、子どもたちやスレッシュファミリーに振る舞いました。芋の皮を剥くナイフのようなものを使ったり、焚き火で巨大なフライパンを使ったりして作り、とても好評でした。また、子どもたちのダンスも見せてもらい、とても楽しく過ごしました。

インドと日本、インド人と日本人に文化などの違いがあるように、キャンパー同士の違いもあります。聖書研究では、それぞれの考えがあるということを受け入れようと思いました。貧しさとは何なのか、自分の強み、弱みについて、自分の限界についてなど、沢山のことを話しながらキャンプを過ごしました。沢山の考えの違いを受け入れることから、良いものや良い考えが生まれるのではないかと思います。

また、そうやって色々な考えを言い合う中で、自分はどうかろう、自分はこう考えているな、と自分と向き合う時間がとても多くありました。誰かと向き合うことが自分と向き合うことにつながることで、また、自分と向き合うことが、誰かと向き合うことにつながることを知ったキャンプでした。チェンナイではそのままとめとして、このインド・スタディーキャンプを振り返り、キャンパーたちとも交流できました。

岩手大学4年 東彩由海(マックスリーダー)



表紙の写真から



盛岡YMCAのスタッフに協力してもらいました。カブの役はサルリーダー。主役のネズミは、チューリーダーです。

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>

感謝

(2019年12月26日現在 敬称略)

●維持会員

伊藤真太郎、伊藤愛美、晴山浩輔、工藤悦子、今野健男、今野聖子、花田瞳、戸真文、鶴丹谷三千代、中島敬泰、家村知佳、押切梓、名古屋信彦、名古屋理恵、増田隆川、坂保宏、伊藤信彦、大関靖二、南原良哉、伊藤真一、伊藤みどり、高瀬裕彦、田村治之、遠藤昌樹、尾張幸久、飯島隆輔、林辰也、魚住恵、今松桂子、熊谷大樹、森山日菜乃、森山幹大、光永尚生、北田仁則、北田アユ子、東森聡、人見晃弘、尾形裕二郎、山口貴伸、井上修三、井上優子、井上浩太郎、長岡正彦、高橋友恵、水田賢次、澤田優美、平泉幸子、佐々木理香、藤原祐三、浅沼恵、浅沼美希、若井淳、及川茂夫、阿部深雪、上中優奈、植田一茂、松尾聡子、武田理恵子、佐藤洋一、菊地弘生、重石佳司、Koshiba、熊谷咲希、日語教会、滝川佐渡子、淺沼誠久、高橋奈菜、水野暢夫、濱塚れい子、濱塚有史、濱塚真美、佐藤翔古、澤村、向平慎もひろ、小川嘉文、濱塚直樹、森子、小川明佑、廣川健太郎、厚子、はるな、野澤朋華、魚住英昭、尾張幸久、大久保里美、中村圭一、菅原步、武田悠、釜ヶ澤亮、齊藤優太、布引和生、ガイアリンク(株)、角谷晋次、神田鶴恵、中原真澄、小林茂元、齋藤之彦、清水彦彦、小林明彦

●寄附金

晴山浩輔、工藤悦子、今野健男、今野聖子、家村知佳、南原良哉、伊藤真一、伊藤みどり、田村治之、遠藤昌樹、尾張幸久、今松桂子、熊谷大樹、光永尚生、人見晃弘、及川茂夫、菊地弘生、日語教会、尾張幸久、ガイアリンク(株)、角谷晋次、武田理恵子